【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀県立致遠館中学校

1　前年度 評価結果の概要	・学校の教育目標に基づいた本年度の重点目標は概ね達成できているといえる。 ・次年度に向けて、本年の取組をさらに深化させ、「知・徳・体」の充実に向けた教育活動を展開していきたい。 ・本年度の課題を精査し、各種業務を精選・改善することで、行き届いた教育活動につなげたい。また、働きやすい職場づくりや働き方改革を推進する。
2　学校教育目標	**世界の中の日本人として、未来社会の文化の創造と発展に力をつくす、豊かな人間性と進取の気性に富む若人を育てる。**
3　本年度の重点目標	**①授業・部活動・学校行事等をとおして、「知・徳・体」のバランスをとれた若者を育成する。** **②学校生活や様々な活動をとおして、「生徒の生きる力（自ら判断し、適切に行動する力・困難に打ち勝つ力）」を醸成する。** **③高い志をもち、主体的に進路目標を定め、その実現に向け、生徒が学習に精力的に取り組み、教職員が的確な指導・支援を行う。** **④教職員にとって働きやすくてやりがいを感じる職場づくりと、１ヶ月の時間外在校等時間を４５時間以内とする働き方改革を推進する。**

4　重点取組内容・成果指標　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師を80%以上にする。	・少人数授業やTTを実施し、個に応じた指導の充実を図る。 ・補充学習や発展的学習を積極的に取り入れる。	A	・全国学力・学習状況調査では平均正答率が国語・数学ともに84%で、全国平均国語64%、数学57%を大きく上回った。 ・少人数従業やTTを実施するとともにC-timeを利用して補充学習を行った。また、夏季学習会や冬期学習会では発展的な内容に取り組んだ。
	○基礎学力の充実	○授業に対する満足度・理解度を80%以上にする。	・復習用の課題や確認テストなどを活用し、基礎学力の定着を図る。 ・定期考査や模擬試験などで学習の定着度を把握し、実態に応じた指導を適切に行う。 ・生徒による授業評価を実施し、その結果に基づいて、授業の改善を行う。	A	・復習用の課題や確認テストなどを活用し、学習の実態を把握することで、生徒の実態に合わせて補充的な内容あるいは発展的な内容に取り組むなど適切な指導が行われた結果、生徒対象の学習状況調査を実施し、満足度・理解度ともに生徒の回答は「そう思う」・「ややそう思う」を併せて、97%と高い結果が得られた。
	○自発的学習習慣の定着と宅習の充実	○平日2時間、休日4時間の週18時間以上の家庭学習時間を確保する。	・家庭学習状況を把握し、適切に指導を行う。 ・学年，教科が連携して計画的に課題の量を調整し、生徒に提示する。 ・ICTを利活用した効果的な学習指導法を追究する。	A	・平日の家庭学習時間は全国平均を上回り、特に土日の学習時間は全国平均を大きく上回っている。学年と教科が連携し、課題の量の調整や内容の精選を行っている。 ・通常授業において電子黒板・学習用PCを用いた授業改善を行っている。また、リモート授業も適宜実施し、プリントなどの送信も行っている。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒を80%以上にする。 ○図書室の貸出冊数を一人20冊以上にする。 ○豊かな心の醸成につながる講演会を年1回以上行う。	・人権講演会（人権集会）や道徳に関するアンケートの実施。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施。 ・図書委員会の活動をとおし、て図書室の利用を促進し、読書の啓発活動を行う。 ・各学年会・生徒指導部会・教育相談部会を定期的に開催し、情報共有を行う。	A	・人権講演会及び道徳に関するアンケートを実施した。道徳のアンケートではおおむね80%以上の生徒が肯定的な回答をしていた。 ・各学年会・生徒指導部会・教育相談部会を定期的に開催し、生徒についての情報共有を行った。 ・本の貸出冊数は生徒一人あたり23冊だった。図書館報や読書会等を通じて生徒の読書意欲を喚起することができた。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ重大事案の件数0を目指す。 ○いじめ問題の解消率100%を達成する。	・各学年や各クラスの職員による見守りを強化する。 ・状況把握調査（年2回）および生活アンケート（毎週）の実施。 ・関係分掌や関係諸機関との連携を図り、生徒のケアや指導を組織的かつ継続的に行う。	A	・状況把握調査（年2回）および生活アンケート（毎週）を行い、特に生活アンケートについては校務分掌や学年で話し合い、より生徒の実態に即したものに改変した。また職員による見守りを行った結果、いじめ重大事案は0件であった。また発生したいじめ問題についても連携を図りながら対応し、解消率は100%であった。
	○人権・同和教育の推進	○「人権が尊重され生活できている」と感じる生徒を100%にする。 ○新たな人権課題を把握し、解決しようとする姿勢を養う。	・「人権意識に関するアンケート」の実施。 ・職員研修を実施し、職員の人権・同和教育に対する意識を高める。 ・各教科、特別活動における人権学習を充実させ、生徒の人権意識を高める。	A	・人権集会で、全クラスで人権標語を作成するとともに、生徒会で作成した動画等を視聴することで、生徒の人権意識を啓発した。 ・人権・同和教育に係る職員研修を実施し、人権・同和教育に対する意識を高めた。 ・教職員及び生徒を対象として、人権・同和教育講演会を実施し、生徒の人権意識を高めた。
●健康・体つくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○朝食喫食率を95%以上にする。 ○「健康に食事は大切である」と考える生徒を100%にする。	・「保健だより」などを活用し、睡眠・食事の重要性を伝え、生徒の意識を高める ・朝食喫食率調査やミルク給食等をとおして、食育を推進する。 ・生活ノートの記入を徹底し、指導に有効活用することで、規則正しい生活習慣の定着を図る。	A	・「保健だより」を毎月発行し、特にコロナ予防対策、ネット上でのトラブル防止、睡眠・食事の重要性を伝えた上で健康管理への意識を高めた。 ・学校評価アンケートでは、適度な食習慣を身につけているかという項目で、生徒・保護者ともに90%以上と回答した。また、中学2年生を対象とした食事の重要性についてのアンケートでは、100%の生徒が大切だと回答し、喫食率アンケートでは98%の生徒が朝食をとっていると回答し、目標達成に至った。 ・生活ノートの記入かClassiの入力を徹底し、学年との情報共有をし、個々にあった対応・指導をすることができた。
	○部活動(社会体育を含む)や課外活動への意欲的な参加	○部活動(社会体育を含む)への参加率を90%以上にする。 ○部活動計画に基づく休養日の実施率を100%にする。	・体験入部期間を設けるなど加入を促進する。 ・ボランティア活動等の課外活動への参加を促す。 ・部活動休養日調査を毎月行い、「部活動の在り方に関する方針」に沿った休養日の設定を徹底する。	A	・年度途中で数人部活動に加入する生徒も見られ、90%を超えることができた。 ・ボランティア活動等はコロナウイルスの関係で積極的に行うことが出来なかったが、2年生の雑巾作りなど形を変えて行うことはできた。 ・部活動休養日調査を毎月行い、「部活動の在り方に関する方針」に沿った休養日の設定を徹底でき成果は得られた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・週1日は定時退勤日を設ける。 ・業務記録を週ごとに確認し、職員の時間外在校等時間の自己管理を徹底する。 ・会議や行事の縮減と業務の効率化を図る。 ・部活動指導は年間計画に基づき行い、休養日を適切に設ける。	B	・時間外在校等時間（12月末時点）については、月平均35時間02分で上限の45時間を下回ったが、上限を超過した職員数は月平均4名で、完全な目標達成には至らなかった。 ・出退勤管理システムによる時間外在校等時間の自己管理、毎週1回の定時退勤日の設定、会議や行事の縮減と業務の縮減と効率化、適切な部活動休養日の設定等を促し、職員の意識を高めた。
	○教職員間の信頼・連携の強化と働きやすい職場づくり	○「働きやすい職場である」と考える職員が90%以上。	・職員アンケート（年1回）の実施。 ・ハラスメント研修（年3回）の実施。 ・月1回のゼロの日を設定し、教育公務員としての自覚を再確認する。 ・校内での職員の相談体制の周知徹底。 ・衛生委員会の充実。	A	・アンケート等で「働きやすい職場である」と答えた職員は90%を超え、目標を達成することができた。 ・年度当初に職員の相談体制の周知を図り、学期ごとにハラスメント研修を実施することができた。 ・月1回のゼロの日の設定により、教育公務員としての自覚を促すことができた。 ・衛生委員会を毎月開催し、情報交換を行い、産業医の指導・助言を得ながら、働きやすい職場づくりに生かすことができた。

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果
○中高一貫教育の充実	○中高6年間を見通した教育課程の編成と実践	○必要な基礎学力・応用力の育成。 ○中高6年間を見通したより良い教育課程の編成を目指す。	・キャリア部会や中学校連絡会において、本校により適した教育課程について検討を行う。	A	・中学校連絡会を毎月実施し、学習状況調査の結果の分析など、その都度情報の共有、課題の検討・改善を行った。次年度に向けたキャリア教育全般の見直し・検討を行った。
	○中高6年間を見通したキャリア教育の充実	○学校評価アンケート「中高一貫校の特色を感じるか」「生徒に応じた進路指導をしているか」において肯定的な回答をした生徒をともに80%以上にする。	・学校評価アンケート（年1回）の実施。 ・キャリア部会などをとおして、中高職員の共通理解を図り、キャリア教育事業の効果的な運営に努める。 ・ピックアップ面談等を通じ、進路選択に関して個に応じた適切な指導を行う。	A	・学校評価アンケートで「生徒に応じた進路指導をしているか」において肯定的な回答の生徒は89.1%であった。 ・キャリア教育事業については、職員と共通理解を図りながら、外部講師を招いた講演会や職業人と語る会などを実施し、貴重な経験となった。 ・夏期休業中に中学3年生のピックアップ面談を行い、普通科、理数科など進路選択に関して迷っている生徒に適切な助言を与えることができた。
◎志を高める教育	◎主体的に行動する姿勢と自律心の養成	◎「さがを誇りに思う教育」を推進し、「佐賀に愛着を持つ」生徒を80%以上にする。	・総合的な学習時間や学校行事等をとおして、郷土に関する学習を実施する。 ・エリアスタディやボランティア活動によって地域との連携を深め、郷土のことを知る機会を設ける。	A	・総合的な学習時間や県立博物館・美術館訪問などの学校行事をとおして、郷土に関する学習を実施することができ、佐賀の事を学ぶことができた。 ・エリアスタディ・Jr.課題研究の取り組みで、1年生は佐賀、2年生は日本、3年生はグローバルな視野で研究を行うことができ、「佐賀に愛着を持つ」生徒を80%以上にすることができた。
	○SSH事業の活用	○「Jr. 課題研究」や教科「探究基礎」をとおして、実験や調査等での試行錯誤をもとに教訓を作り、主体的な学びに活用した経験のある生徒を80%以上にする。	・「Jr. 課題研究」や教科「探究基礎」において、「試行錯誤から学ぶ力」や「協働的に取り組む姿勢」の育成につながる指導法の開発に取り組む。	A	・生徒は「Jr.課題研究」や教科「探究基礎」、「エリアスタディ」において、「試行錯誤から学ぶ力」や「協働的に取り組む姿勢」を身につけていった。特に「Jr.課題研究」の中間発表会で、自分たちの取り組みを客観的に振り返り、発表会で受けた指導助言を基に協働して取り組んだと回答した生徒が97%であった。
○教育の質の向上	○主体的な学びを重視した授業の推進	○意欲的・主体的に生徒が取り組めるよう授業改善を進めた教員を100%にする。	・毎月1回、公開授業を実施し、指導力の向上を図る。 ・生徒による授業評価を実施し、その結果に基づいて、授業の改善を図る。	A	・年間を通して、計13回の公開授業及び授業研究会を実施した。教科や中高の別を越えて、教員が相互に指導力を高める研修の場を設けることができた。 ・「学校は学力向上のための適切な指導ができていると思いますか」との問いにどの学年も「そう思う」と「ややそう思う」と回答した生徒が90%を超えており、公開授業などによる授業改善の取組がこれに寄与していると捉えている。・授業評価は7月より12月で高い評価が出ており、教員の授業改善の取り組みが進んだといえる。
	○ICT利活用教育の推進	○主体的に情報を収集し、発信できる生徒を100%にする。 ○ICTを活用して、知識・技能を深め、自らの資質向上に生かそうとする生徒を80%以上にする。	・ICT成果指標の達成のために、適切な指導を行う。 ・「エリアスタディ」や「Jr. 課題研究」等を通じて、情報収集力・分析力・プレゼン力を育成する。 ・英検等の資格取得のための学習や部活動におけるICTの活用を推進する。	A	・ほぼ100%の生徒が「エリアスタディ」、「Jr課題研究」を通して、情報収集を行い、グラフやプレゼン作成のためにICT機器を利活用することができた。電子黒板を使って発表したり、パソコンを使ってレポートにまとめるなど、研究結果を全体で共有することができた。また部活動等でも分析に活用することができた。

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・学校教育目標に基づいた本年度重点目標は概ね達成できたが、基礎学力の向上と応用力の向上と業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減については課題が残った。 ・令和3年度に取り組んだキャリア教育の見直しをさらにすすめ、生徒の自発的学習習慣の定着や主体的な学びを重視した授業を構築していきたい。 ・